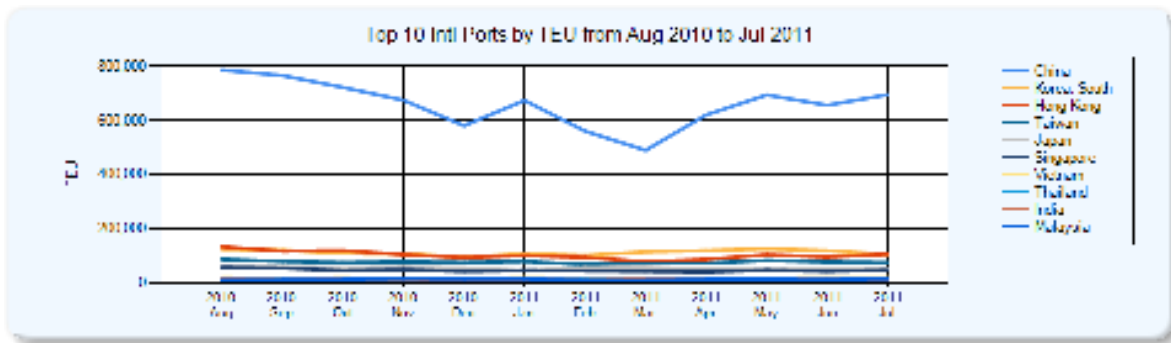


米国通関統計 7 月度輸入実績速報

ゼポ発表:アジア発米国向けコンテナ 7 月は前月比 3.9%増加、前年比は 5.4%減

前月比で中国が 6%増, 韓国は 2 か月連続減少、日本は連続増加に



(7 月度月別トレンド ; Top Line 中国)

Source: Zepol Corporation-TradeIQ\*

**Zepol (ゼポ) Corporation** (本社・米国ミネアポリス [www.zepol.com](http://www.zepol.com)) は、8 月 9 日、米国税関 AMS・B/L データを基に、米国海上輸入 7 月度実績をまとめました。

それによると、アジア主要 10 カ国発 (B/L・Loading Port・母船積地ベース・実入り) TEU は、先月に比べて 3.9%の増加でしたが前年同月比では 5.4%のマイナスでした。米国輸入全体でも 7 月は前月比で 3.1%のプラスでしたが、前年比では 5.4%のマイナスでした。1-7 月累計の前年比は 3.3%のプラスでした。

主力の中国は 4 月・5 月の上昇の後、6 月は前月比でマイナス 5.4%でしたが、7 月は 6%増と戻しました。しかし前年比では-9.4%、-3.4%と 2 か月連続のマイナスです。ただし昨年の 7・8 月実績は例年よりも前倒し出荷増があったことは勘案されるべきかと思われます。(別表 1 参照)

上位グループの韓国、台湾が前月比、前年比ともに 2 か月連続のマイナスで、韓国は前月比 -11.5% (6 月 -5.6%)、前年比 -13%(6 月 -7.1%)の減少でした。

台湾も同様に前月比では-2.9% (6 月 -6.8%)、前年比では-8.1%(6 月 -9.9%)の減少でした。日本は前月比では 6 月の 2.3%増に続き 7 月も 3.3%増でしたが、前年比では 6 月の-12.5%に続き 7 月も-7.7%の減少でした。

6 位のシンガポールは 5 位の日本に迫る形で、前月比では 10.7%増でしたが前年比では 6 月(-25.1%)に続いて 7 月も減少で-8.3%でした。

ベトナムは前年比が 6 月の 34.5%に続き 7 月は 32.9%の増加で、マレーシアも同様に前年比が連続大幅増加で 7 月は 48.1%を示しました。タイとインドは、6 月の前年比が揃って 10%の減少でしたが 7 月もそれぞれ-3.9%、-7.5%と減少でした。

別表1 アジア主要10カ国発 米国向け7月 TEU (母船積地ベース・実入り)

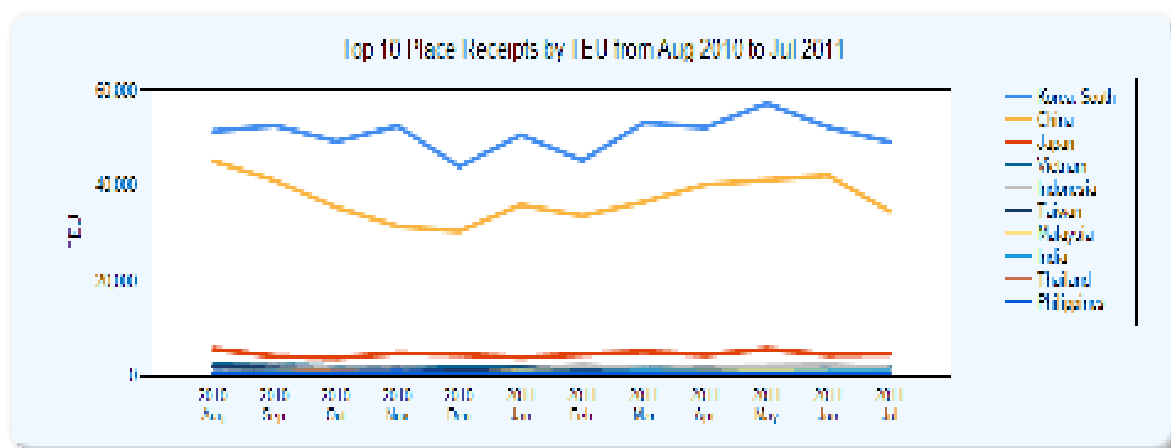
Intl_Port	7月	シェア(%)	前月比(%)	前年比(%)
1. 中国	694,953	61	6	-3.4
2. 韓国	105,078	9	-11.5	-13
3. 香港	106,032	9	11.1	-14.4
4. 台湾	74,739	7	-2.9	-8.1
5. 日本	51,577	5	3.3	-7.7
6. シンガポール	47,355	4	10.7	-8.3
7. ベトナム	19,424	2	1	32.9
9. タイ	14,003	1	3.9	-3.9
10.インド	11,750	1	-4.6	-7.5
8. マレーシア	14,657	1	21.6	48.1
<b>アジア10か国合計</b>	<b>1,139,569</b>	<b>100</b>	<b>3.9</b>	<b>-5.4</b>
<b>米国輸入世界合計</b>	<b>1,720,691</b>		<b>3.1</b>	<b>-2.7</b>

Source: Zepol TradeIQ

東アジアのハブ港である韓国・釜山港の集荷国別シェアは、自国分の前月比が6月の-8.6%に続いて7月も-5%の減少で、前年比も6月の-2.7%に続いて-34%の大幅マイナスでした。一方、釜山TSの4割弱を占める中国華北港発も7月は前月比、前年比ともに-18%、-19%の減少で、上記の中国発全体の前月比6%増加のトレンドとは同期していません。(別表2, 2A参照)

また、2割強を構成するアジア各国発も、日本とパキスタンを除いて家並みマイナスで韓国積合計が-11%の減少となっています。(別表2参照)

別表2A 釜山TS・中国発と自国分の月別トレンド(7月)



(Top Line 中国、2<sup>nd</sup> Line 韓国自国分)

Source: Zepol TradeIQ

別表2 釜山港T S 国別シェア (7月)

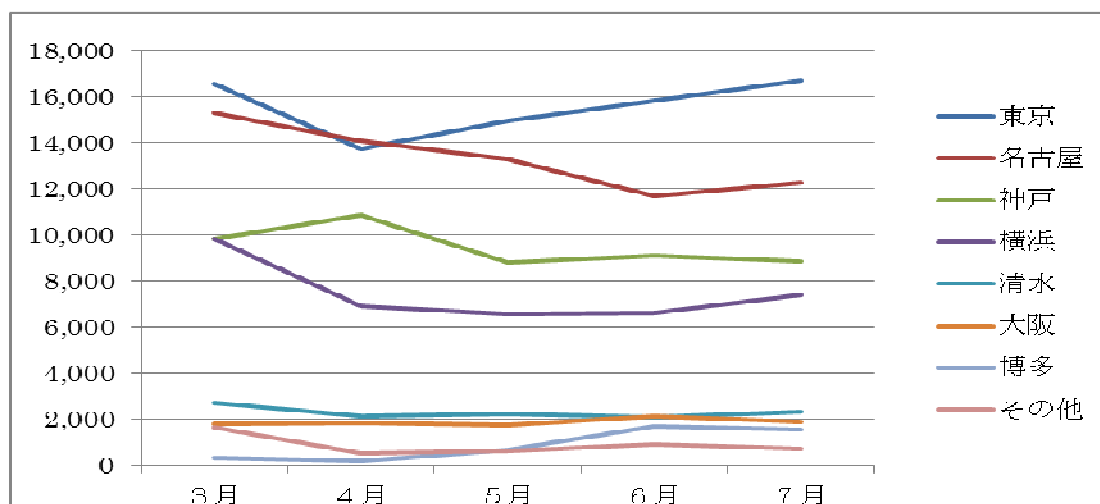
Place_Receipt	7月釜山TSシェア (%)		前月比(%)	前年比(%)
1. 韓国	49,231	51.4	-6	-34
2. 中国	34,616	36.1	-18	-19
3. 日本	4,720	4.9	4	14
4. ベトナム	1,800	1.9	-9	-11
5. インドネシア	1,590	1.7	-35	-12
6. インド	855	0.9	-1	-45
7. マレーシア	782	0.8	-39	-3
8. 台湾	514	0.5	-35	-29
9. パキスタン	342	0.4	62	-39
10. タイ	284	0.3	-17	-38
その他	1,109	1.2	-10	-10
<b>釜山TS合計</b>	<b>95,844</b>	100.0	<b>-11</b>	<b>-11</b>
<b>韓国発合計</b>	<b>105,078</b>		<b>-12</b>	<b>-13</b>

Source: Zepol TradeIQ

次に、日本各港に対する震災の影響度合いと復興の程度を知る意味で、3月から7月までの5か月間の推移と、3月に対する7月時点での増減(%)を日本積と釜山T S分について比較し別表3-6に示します。

- 1) 日本積は東京、大阪、が3月レベルまで戻ったが、横浜-25%, 名古屋-20%, 神戸・-10%, 清水-14%で、全港合計では-11%のレベルである。(別表3参照)
- 2) 釜山T S分を博多、日本海側、それ以外の港と3つに分けて見ると、博多が3月レベルの半減に対して、日本海側は3.7倍のレベルで急増し、それ以外の各港(太平洋側)は下記4)の通り増加傾向を示している。(別表4トレンドグラフ参照)
- 3) 日本海側5港の中でも新潟は5月以降の急増で、釜山T Sの順位でも新潟港単独で広島を上回り博多についで2位となっている。(別表5参照)
- 4) 広島、神戸、細島、横浜、那覇、大分、四日市など太平洋側各港からの釜山T Sも3月に比べて増加しており、3月より+6%のレベルである。(別表6参照)
- 5) 日本積の-11%に対して釜山T S分が-9%とやや上回っている。(別表3, 4参照)

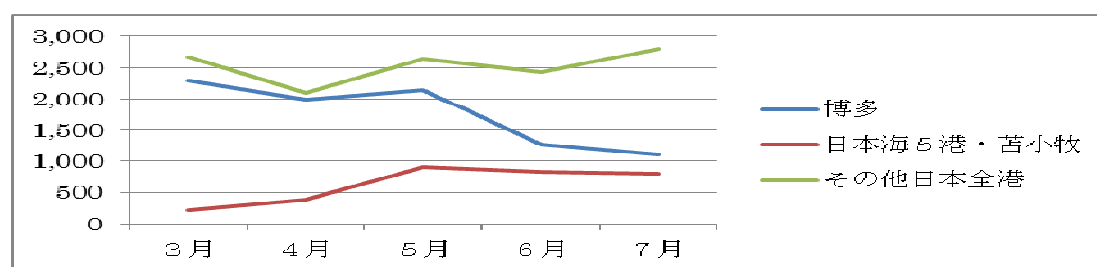
別表3 日本積の港別荷動き (3月-7月)



Intl_Port	3月	4月	5月	6月	7月	対3月比 (%)
東京	16,563	13,731	14,948	15,799	16,688	1
名古屋	15,277	14,062	13,301	11,683	12,264	-20
神戸	9,804	10,855	8,817	9,071	8,850	-10
横浜	9,817	6,881	6,569	6,606	7,359	-25
清水	2,708	2,115	2,212	2,073	2,333	-14
大阪	1,765	1,845	1,753	2,142	1,868	6
博多	307	158	656	1,659	1,520	495
その他	1,622	517	587	906	694	-57
<b>日本港積合計</b>	<b>57,863</b>	<b>50,164</b>	<b>48,843</b>	<b>49,939</b>	<b>51,577</b>	<b>-11</b>

Source: Zepol TradeIQ

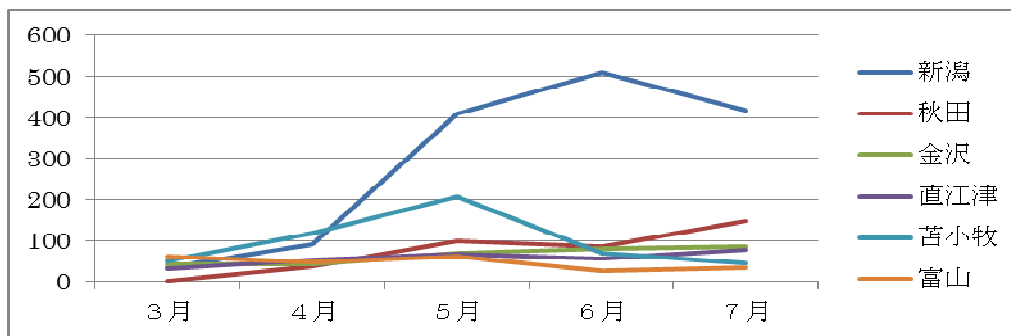
別表4 釜山TSの日本港荷動き (3月-7月)



Place_Receipt	3月	4月	5月	6月	7月	対3月比 (%)
博多	2,297	1,989	2,147	1,262	1,104	-52
日本海5港・苫小牧	220	386	908	825	806	366
その他日本全港	2,663	2,092	2,638	2,433	2,810	6
<b>釜山TS 日本合計</b>	<b>5,180</b>	<b>4,467</b>	<b>5,693</b>	<b>4,520</b>	<b>4,720</b>	<b>-9</b>

Source: Zepol TradeIQ

別表5 釜山TSの日本海側各港の荷動き(3月-7月)



Place_Receipt	3月	4月	5月	6月	7月
新潟	34	91	409	509	417
秋田	1	36	99	86	148
金沢	43	41	68	80	86
直江津	31	54	66	55	76
苫小牧	50	117	205	70	44
富山	61	47	61	26	35
日本海5港・苫小牧	220	386	908	826	806

Source: Zepol TradeIQ

別表6 釜山TSの太平洋側各港の荷動き(3月-7月)

Place_Receipt	3月	4月	5月	6月	7月
博多	2,297	1,989	2,147	1,262	1,104
日本海5港・苫小牧	220	386	908	825	806
広島	247	160	136	234	402
大阪	559	465	549	425	380
神戸	298	257	231	225	347
細島	166	134	215	110	257
横浜	132	56	243	230	255
門司	233	270	223	207	186
徳山	194	192	236	129	173
那覇	25	56	40	126	149
東京	156	86	195	104	122
大分	103	64	134	131	117
四日市	0	0	8	80	98
志布志	133	94	100	208	82
松山	98	77	106	46	54
他	318	181	222	178	188
釜山TS日本分合計	5,180	4,467	5,693	4,520	4,720

Source: Zepol TradeIQ

## \*\* Zepol (ゼポ) TradeIQ とは ???

- \* Zepol TradeIQ は、米国税関から公表される AMS (Automated Manifest System) B/L 記載データを Zepol (ゼポ) が独自開発した検索エンジンによりデータベース化した米国貿易統計データで、通関後約 1 週間で分析結果を把握可能となりました。
- \* 毎日数万件に及ぶ全米各港からの B/L 情報が 2003 年以來、既に 9 千万件蓄積されており、米国のデータベースにユーザーはどのパソコンからでも簡単にアクセスし、検索・作表・ダウンロードが可能で、IT のパワーをフルに活用した速報性の高い分析ツールとして各業界・調査機関から評価されています。
- \* ロジステック関連 IT ソリューション・プロバイダーとして、Zepol は 2011 年発表の “Top 100 Logistics IT Providers” にも選ばれています。  
([www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml](http://www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml) )
- \* PC 画面上で B/L #, Shipper, Consignee, Ports, Carrier, Products, Weight, TEU などの個別 B/L 記載内容のマトリックス分析が簡単に行えます。
- \* 又、Container Type, LCL/FCL, Empty/Loaded, FROB 貨物、などの区分も可能で目的に応じた分析が出来ます。
- \* 毎月、約 40 日後に発表される商務省統計に先立ち、前月の米国輸入動向が翌月の上旬には把握できる「一番早く公表される米国貿易統計」です。
- \* 統計情報としての公的な情報価値に加えて、米国情報公開法により入手可能となっている個別 B/L 記載データは希少価値の高いファクト情報源です。  
ゼポのクライアント企業、ポートオーソリティなどを含む公的機関に於いては、例えば国別、港別のトレンド分析から、すぐに同じ PC 画面上で荷主、相手港、輸入先、船社/NVOCC、品目・数量などアクチュアル情報への掘り下げを行いアクションに結び付けています。  
統計分析ツールであると同時に市場競争の為のツールとして活用されています。  
([www.zepol.com](http://www.zepol.com) )

本リリースの内容と Zepol (ゼポ) に関するお問い合わせ先：

日本：Zepol Japan [mnanseki@zepol.jp](mailto:mnanseki@zepol.jp)